

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090100159		
法人名	社会福祉法人 恵康会		
事業所名	グループホーム ひかりの丘		
所在地	福岡県北九州市門司区上藤松3丁目2-1 (電話) 093-382-3111		
自己評価作成日	令和 3 年 5 月 25 日	評価結果確定日	令和 3 年 8 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

歯科医である理事長の元、口腔機能の維持ができ、いつまでもおいしく食事が食べられるように支援しています。そのため、食事前の口腔体操や毎食後の口腔ケアを行い、歯科衛生士とも連携を図り、口腔衛生に気をつけています。食べる楽しみが継続でき、旬のものを収穫して食べて頂けるように、テラスで野菜を育て、食事作りで活用しています。また、洋室と和室があり、入居前のライフスタイルに合わせて、ユニットを選んでいただけるようになっています。居室にはご本人様が使っていたタンスやお好きなものを持ってきて頂き、自宅と変わらないようなくつろげるスペースづくりを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 6 月 14 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームは自然豊かな住宅地の中にあり、介護老人福祉施設とショートステイが併設されている。理事長が歯科医師であり、利用者の口腔ケア等に重点が置かれている。地域との交流や地域密着型サービスの充実に努められている。法人で身体拘束廃止委員会や事故防止委員会、褥瘡予防対策委員会を立ち上げ、職員の「安全」意識の向上を図っている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの入り口に理念を掲示し、職員が共有しながら日々の業務にあたっている。	理念と基本方針に近隣地域とのつながりや地域に開かれた事業所を目標としていることが読み取れる。毎日、理念等を唱和して、意識づけがされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加している。地域のお祭りなどに参加したり、施設の祭りに来ていただいたりして、交流を図っていたが、コロナ禍の影響で中止となっている。	グループホームは町内会に加入している。コロナ禍で中止もあるが、普段は地域開催の夏祭りなどの行事に参加している。事業所主催の餅つき大会などに住民の参加を呼び掛けている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れなど行っていたが、コロナ禍の影響で中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設している特別養護老人ホームと合同で2か月に1回開催していたが、コロナ禍の影響で書面で報告を行い、意見や要望も書面で回答していただいている。	運営推進会議は通常2か月に1回開催されている。新型コロナウイルス感染症の感染防止のために現在は書面開催となっている。利用者から提案された花見会などが実施されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話にて相談を行い、対応して頂いている。	地域包括支援センターには運営推進会議参加の呼びかけや電話連絡を行っている。	行政に出かけ、事業所の実情を伝えるなど、行政との協力関係の構築を期待する。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束が利用者にもたらす精神的・身体的苦痛を理解しあい、言葉での抑制にも意識を高めるようにしている。	玄関や居室に施錠はしていない。身体拘束廃止のために法人で身体拘束廃止委員会を設置している。職員研修はヒヤリハットやリスク管理方法など、具体的な内容を実施している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	心理的虐待については見過ごされやすいため、職員同士で声掛けや言葉使い等 zu 注意しあい、心掛けている、		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方はご家族が対応している。また、権利擁護に関する制度について必要な時はご家族に説明している。	法人研修委員会の企画で権利擁護に対する研修が行われている。成年後見制度について、過去に制度利用していた利用者がいた。契約時に制度の説明を行うことがある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明し、納得して頂けるようにしている。疑問や不安がある時は、その都度対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に意見箱を設置している。また、ご家族と電話でやり取りを行い、話して頂きやすい雰囲気づくりを心掛けている。	意見箱は玄関そばに置かれている。日常的には利用者や家族からの要望や意見を職員が聞き取り、反映することが多い。行きたいところや食べたいものなど、できることは実現させ、運営に生かしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングを各ユニットごとに月2回行い、全職員が参加でき、活発に意見交換が出来るように心がけている。	定期的な職員会議で提案されるアイデアや内容を運営に生かしている。ユニット会議が月2回開催され、食事の内容や屋上の菜園、身近な散歩先などについて、職員から意見が出されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長による個人面談を行っている。また、日ごろからコミュニケーションを図り日常会話の中で、やりがい等を尋ねている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の資格取得に向けて協力体制を取っている。定年後も希望する職員はパートなどライフスタイルに合わせて仕事を続けられる制度がある。	法人で職員採用する際に性別や年齢を条件にはしていない。介護福祉士など資格取得後の支援として、手当支給など動機づけがされている。定年後の雇用延長も認められている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する資料を配布しミーティングを活用して、一人ひとりの人権に対する意識を高めている。	法人では研修委員会や身体拘束廃止委員会などを設置して、利用者の人権を尊重する取組がなされている。人権教育などの資料配布や職員会議で内容を検討している。テキストや研修記録が残されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修にはなるべく多くの職員が参加できるように勤務調整を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響で外部との交流はできていない。同法人内の管理者等とは情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを傾聴し、他者との交流が図れるように職員が間に入るようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向や意見を伺い、いつでも相談に応じることが出来るようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の意向や思いを傾聴し、入居前に受けていたサービス関係者の方々にも情報をいただいて、必要な支援について検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話の中などでご利用者より学ぶこともあり、お互いの思いを尊重しながら、穏やかな生活が送れるよう対応している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモート面会などを活用し、遠方に住んでいるご家族にも安心して頂けるように取り組んでいる。病院受診などにも協力して頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで希望の場所を訪れたり、家族、友人からの電話の取次ぎをしている。	職員は利用者や家族との日常的な会話の中から、生活歴や馴染みの場所や人を把握している。電話や手紙などで知人との交流を支えたり、ドライブの際に馴染みの場所に立ち寄るなど工夫をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者同士が気軽に話せるように、席の配置を考慮したり、ユニット間を行き来できるようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も施設に訪ねて来やすいような雰囲気づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご本人や家族に聞き取りを行い、日々の関りの中でご本人の意向や思いを観察している。	職員は日常の生活の中で、利用者の想いや希望の把握に努めている。新型コロナウイルス感染症の感染防止の取組として、タブレット端末等で遠隔での面談を行うなど、家族や知人との交流に工夫がなされている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や住環境などを確認し、サービスの利用についても把握するようにしている。ご家族からも話を伺うようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースに合わせて過ごして頂けるように、訴えや思いを観察し把握するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には定期的に近況報告を行い、職員間は月2回のミーティングで意見を出し合い、話し合うようにしている。必要に応じて、主治医や訪問看護師、歯科衛生士に意見を求めている。	介護計画及びモニタリングは、関係者参加のもと定期的実施されている。介護計画の見直しは、6ヶ月毎実施されている。見直し後の介護計画の内容は、家族の確認・了承を得る取り組みが行われている。また、利用者の暮らしの状況を記した「近況報告」で家族へ報告がされている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の記録は業務日誌、介護記録に残している。勤務交代時に申し送りを行い、必要事項などはユニットの申し送りノートに記入するようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてご家族に相談しながら対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回、地域のセブンイレブンやロバのパン屋が訪問販売をしてくれていたが、コロナ禍の影響で中止している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望を聞き支援している。往診、定期受診以外に病院受診の必要性が生じた場合は、ご本人様、ご家族と相談し受診する病院を決めている。	提携医による月2回の定期的な往診や他科受診等への同行支援が実施されている。受診後の診療内容や連絡事項等、家族への報告はその都度行われている。日頃からの健康管理及び体調管理、感染予防等、24時間安心の医療連携及び支援が行われている。また、常駐する歯科衛生士による口腔ケア、チェック等が実施されている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問時に日々の様子を細かく報告するようにし、助言を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の医療連携室と連絡を取りあい、出来る限り早期に退院できる様情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けたお話をしている。日々の生活の中でご本人の意思を確認できた場合は早めにご家族に伝えるようにしている。職員は終末期の対応についてミーティングで話し合っている。	入居時点で利用者、家族へ明文化された「重度化対応と看取りに関する指針」を基に提示・説明を行い、同意を得る取り組みが行われている。職員へは看取り研修を定期的に行っている。入居後は早い段階から本人の意思・家族の意向等を確認し、方針の共有を図り、医療連携のもとチーム支援で取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意し緊急時でもスムーズに対応できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回、利用者と共に避難訓練を実施している。そのうち1回は夜間を想定した避難訓練を行っている。	防災訓練及び夜間想定避難訓練等が定期的に実施されている。訓練に当たっては法人関連施設の介護老人福祉施設や地域との協力・連携も行われている。また、自家発電設備、ハザードマップの確認、マニュアル等の整備や非常食、飲料水の確保への取り組みが行われている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の性格や考え方、気持ちの変化に合わせた声掛けや介助ができるように努めている。	ホームの基本理念に基づく「思いやりの心」に留意した寄り添う介護に留意し、利用者の尊厳に配慮した対応が行われている。法人との連携のもと定期的な研修やユニットミーティング、勉強会等を通じて「接遇」、「個人情報保護」、「プライバシー保護」等の学習機会を設けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から会話の機会を多く取りご利用者が遠慮なく希望や思いの表出、自己決定しやすいように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その日にできることをご利用者に提案し、その方のペースに合わせて声掛けを行い支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア、入浴後の身だしなみ、洋服選びはご自分でされる方、職員と一緒にされる方、全支援の方と個々の状況に応じて支援している。季節に応じて衣替えをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は厨房の食事を召し上がっているため、毎月ご利用者のリクエストに応えた食事作りを行っている。主に誕生日のご利用者に優先してメニューを決めていただいている。	ホームでは、旬の食材と栄養バランスに配慮した食事が提供されている。行事食、誕生日等の特別食等は、利用者のリクエストに応じている。ホームの菜園で収穫された新鮮な季節の野菜が食卓に並ぶこともある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は記録に残し把握できるようにしている。特に水分摂取量の管理が必要なご利用者は声掛けを行いイオンゼリーを提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自立の方も必ず磨き残しがないかチェックし、舌ブラシ・歯間ブラシ・ポイントブラシ等を使用しご利用者全員仕上げをしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄状況を把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。夜間、ポータブルトイレを使用されている方もいる。	一人ひとりの排泄パターンに基づく、自立に向けた排泄支援を行っている。早めの声かけ誘導及び清潔保持や感染予防、プライバシーの確保にも配慮された支援が行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけをし、必要に応じて便秘薬を使用している。個々に応じた予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	羞恥心や恐怖心等に考慮した声掛けを行い安心して入浴が楽しめるようにしている。	入浴は毎日可能となっている。基本的には週 2～3 回の入浴支援が行われている。入浴を望まない場合、シャワー浴や清拭、等で柔軟な対応が行われている。入浴剤や柚子湯等も試みられている。入浴後の保湿、保水ケア等への配慮、支援が行われている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は運動を取り入れたり、なるべく活動して頂けるよう促し夜間の安眠に繋げている。その日の体調に合わせて、居室で休めるよう気を配っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに処方薬品が保管されており確認できるようにしている。変更の時は、スタッフ間の連絡ノートに記入して、すぐに把握できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の体調に合わせて毎日レクリエーションを取り入れ快活に生活できるよう支援している。おしぼり折り等手伝いを通して役割を持つ事で生きがいを感じていただくように工夫している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出することは難しいが、ドライブや季節を感じる事ができるよう近くの公園へ散歩に出向いている。	新型コロナウイルス感染症が収束していないことから、十分な外出が出来ていない状況である。車窓からの花見や公園など、可能な範囲での外出となっている。ホーム内でのアクティビティの工夫や充実を図っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望や力に応じて買い物の際は、お金を所持し使えるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で対面での面会を中止しているためリモート面会を行っている。電話のやり取りも行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや廊下等共有空間に季節を感じられるよう四季折々の飾りつけをしている。清掃、温度、室温には細心の配慮に努めている。感染防止のため職員やご利用者が触れる箇所をこまめに消毒している。	共用空間は、折り紙などの手作り作品や季節の花を生けるなど、生活感や季節感が感じられるように配慮されている。リビングからは直近の場所にテラスや、菜園があり、野菜の成長が身近に感じ取れ、開放的な憩いの場となっている。また、感染予防の対策の徹底が図られている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者との関係を配慮し席を配置している。その日の体調や気分を見て各居室でもゆっくり過ごせる時間をとるよ支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使い慣れた親しみのある家具や小物を配置し落ち着いて寛げる環境を作っている。	居室は、安全に配慮した明るく余裕のあるスペースが確保されている。利用者や家族の馴染みの物が持ち込まれ、寛いで過ごせるよう配慮されている。居室は和・洋室が準備されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場には手すりを設置し自立や残存機能を生かした支援を行っている。また、歩行や不安定な方にも安全面を考え補助具を使用していただいている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関に法人の理念、ユニット入り口にグループホームの理念を掲示している。朝礼時に理念を唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加している。月に2回、ボランティア体操教室があったがコロナ禍の影響で現在は中止している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れなど行っていたがコロナ禍の影響で現在は行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、併設する特別養護老人ホームと一緒にしている。実施できない時は活動内容やヒヤリハットをまとめた書面を地域包括支援センターや民生委員に送っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話で相談したりしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット入り口は自由に行き来きできるように鍵をかけていない。身体拘束の内部研修に参加したり、ユニットミーティングで話し合い認識を深める様にしてしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の内部研修に参加したり、ユニットミーティングで話し合うようにしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットミーティングで資料を基に研修実施している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入り口には意見箱を設置している。利用者、キーパーソンとなるご家族を中心に色々な意見を聞くように努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議、リーダー会議で意見交換を行っている。ユニットミーティングや個別で職員の思いや意見を聞くようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長による個人面談の実施をしている。時間を作り個別に話を聞く機会を設けるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	定年後も希望があれば、契約社員やパートなど本人のライフスタイルに合った働き方ができるよう就労支援を行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する資料を配布しミーティングを活用して、一人ひとりの人権に対する意識を高めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は全職員が参加できるように勤務調整を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響で外部の研修参加は出来ていない。同法人の他事業所の管理者と情報交換などを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で本人の思いや希望を聞いている。ご本人から聞き取り困難な場合はご家族に話を聞くようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入居までの話や入居後の要望がないか、じっくりと聞くよう努めている。電話での相談も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向や思いを傾聴し、入居前に受けていたサービス関係者の方々にも情報をいただいて、必要な支援について検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事活動や食事作りの際にご利用者から助言を頂く事もある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話でご利用者の病院受診や外出、購入品の希望など相談している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで希望の場所を訪れたり、ご家族、ご友人からの電話の取次ぎをしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者同士が話やすい環境を作ったり、ユニット間も自由に行き来できるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も施設に訪ねて来やすいような雰囲気づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の面談で細かくアセスメントを取るようになっている。ご家族からも出来る限り話を聞くように努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や住環境、サービス利用の経過等把握するようになっている。ご家族にも話を聞くようになっている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースに合わせ、ご自分で出来る事は出来る限りして頂けるよう支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットミーティングを月2回行い職員全員が出席し意見を求めるようになっている。主治医や訪問看護師、歯科衛生士からも意見やアドバイスをもらい、ケアに活かせるようになっている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の記録は業務日誌、介護記録に残している。勤務交代時に申し送りを行い、必要事項などはユニットの申し送りノートに記入するようになっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてご家族に相談しながら対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回、地域のセブンイレブンやロバのパン屋が訪問販売をしてくれていたが、コロナ禍の影響で中止している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望を聞き支援している。往診、定期受診以外に病院受診の必要性が生じた場合は、ご本人様、ご家族と相談し受診する病院を決めている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問時に日々の様子を細かく報告するようにし、助言を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院のソーシャルワーカーや担当看護師と連絡を取り、施設での生活の様子など細かく伝えるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の状態変化などを記録に残し主治医、訪問看護師に報告、相談している。家族にも電話等で状態を伝え、希望等を聞くようにしている。ご本人にしっかりと希望がある場合は早めに家族に伝えるようしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意し緊急時でもスムーズに対応できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの性格や今までの生活歴を把握し、その方に応じた言葉かけや対応を心掛けている。他者に見られたくない、聞かれたくないことなどは、個別に対応しプライバシーの配慮に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話や表情態度などからご本人の思いや希望を汲み取り自己決定できる様な言葉掛けや対応を心掛けている。ご本人が思いや希望を表出しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調やご本人の意向を尊重しご本人の意向を尊重しご本人のペースで過ごしていただいている。孤独にならないように気を付けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったもの、上下の色合いなどを考えた洋服選びを心掛けている。ご自分で選べる方には、必要に応じてアドバイスを行っている。行事の時や何気ない日常の際でも時折化粧品やマニキュア、ネイルアートなどおしゃれを楽しんでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの状態に合わせ、おかずを食べやすい大きさにカットしたり、おにぎりにしてお出しするなどおいしく召し上がっていただけるよう工夫している。ご本人やご家族に好物などを伺い、食事レクや誕生日などのメニューに取り入れ楽しんでいただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、食べやすい形状や量を提供している。食事、水分量が少ない場合は、好みの飲み物をお出ししたり主治医に相談している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、ポイントブラシ、歯間ブラシ等を使用し毎食後口腔ケアを行っている。また、定期的に歯科衛生士が口腔チェックを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定期的に声掛けや誘導、パッド交換を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給を行っている。入浴で体を温めたりマッサージを取り入れている。食物繊維の多い食べ物や飲み物を提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の要望を伺い入浴を行っている。拒否のある方には、声掛けを工夫したり、時間をずらす、人を代えるなどして対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の要望やその日の体調により居室で休んでいただくようにしている。室温や換気、ベッドメイキングなど環境面にも配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイルし、いつでも確認できるようにしている。薬の変更があった場合は、申し送りノートに記入し情報共有している。服薬後、心身の状態に変化があった時は、主治医に相談している。飲み忘れ、誤薬がないよう職員間で声掛けや確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きなことや得意なことを把握し、日常の手伝いをしていただいたり、歌をうたう、体を動かすなどレクリエーションに取り組んでいる。お好きな食べ物や食べたい物を伺い食事作りやおやつ作りを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響により病院受診など必要な場合を除き外出は控えている。天気の良い日は、テラスに出て気分転換を図ったりDVDなどの映像で季節の花や風景などを楽しんでいただくようにしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持されていないが、欲しい物などご家族と相談し購入できるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やオンライン面会を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり季節の行事に合わせた壁面装飾などを行っている。好きな音楽や映像など流したり室温などにも配慮し心地よく過ごしていただけるよう努めている。毎日、床やトイレ手すりを拭き掃除を行っている。また職員やご利用者が触る箇所をこまめに消毒している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や力を把握し、席の配置を考えている。ソファーを設置しくつろげるようにしている。表情などを観察し独りになりたい時や疲れが見られた時は、声掛けしソファーや他者と離れた席や部屋で過ごせるよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物やご本人が手作りされた物、愛着のある物など、ご家族が持参され居室に飾ったり使用されている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースに手すりを設置している。同線にはあまり物を置かないようにし安全面に配慮している。居室では、個人の身体能力に応じて立ち上がりやすいようL字棚を使用したり、ベッドマットの硬さなども考慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない